

## 令和3年度電源立地地域対策交付金の活用 (農業試験分析機器等の整備)

電源立地地域対策交付金は、発電用施設の周辺地域における公共用施設の整備や企業の産業関連技術の振興のための事業に対して交付金を交付することで、発電用施設の整備に係る地元の理解促進等を図ることを目的としています。

令和3年度はこの交付金を活用して、果樹研究センターにおいて次の4つの機器を導入しました。

### 超微量分光光度計 (果樹研究センター)

果樹の病害虫対策においては、被害を正確に診断する必要があります。

今回導入した機器は、分析に供試する核酸、タンパク質、細菌といったサンプルの含有量等の調査に使用します。



### 超低温フリーザー（果樹研究センター）

果樹の新品種開発試験等において、信頼性の高い試験を実施するには DNA、RNA、タンパク質、細胞抽出物などの多数の生物サンプルを劣化させることなく長期保存する必要があります。

今回導入した機器は、 $-80^{\circ}\text{C}$ 以下の超低温で長期間のサンプル保存に使用します。



### デジタルマイクروسコープ（果樹研究センター）

果樹の病害虫対策においては、被害を正確に診断する必要があります。

今回導入した機器を用いた調査により、4 K モニタでの撮影画像の確認、撮影画像の自動合成、撮影条件の再現等が可能となり、病害虫診断の精度向上が可能になります。



## インキュベーター（果樹研究センター）

かんきつの長期保存には、各品種に適した温度で保存する必要があります。

今回導入した機器を用いた試験により、新品種の貯蔵特性や凍害耐性等を客観的かつ正確に評価することが可能で、大型低温貯蔵庫等での貯蔵のための基礎データや低温被害のための基礎データの取得が可能になります。

